

第三者審査

報告書の発行実績

98年度版リコーグループ環境報告書		
表記	日本語版	英語版
発行日	1999.1	1999.1
部数	26,200	500
ページ	30p	

リコーグループ環境報告書1999		
表記	日本語版	英語版
発行日	1999.9	1999.9
部数	51,300	8,375
ページ	32p	

リコーグループ環境報告書2000		
表記	日本語版	英語版
発行日	2000.9	2000.12
部数	40,700(2001年6月15日現在)	6,800
ページ	60p	

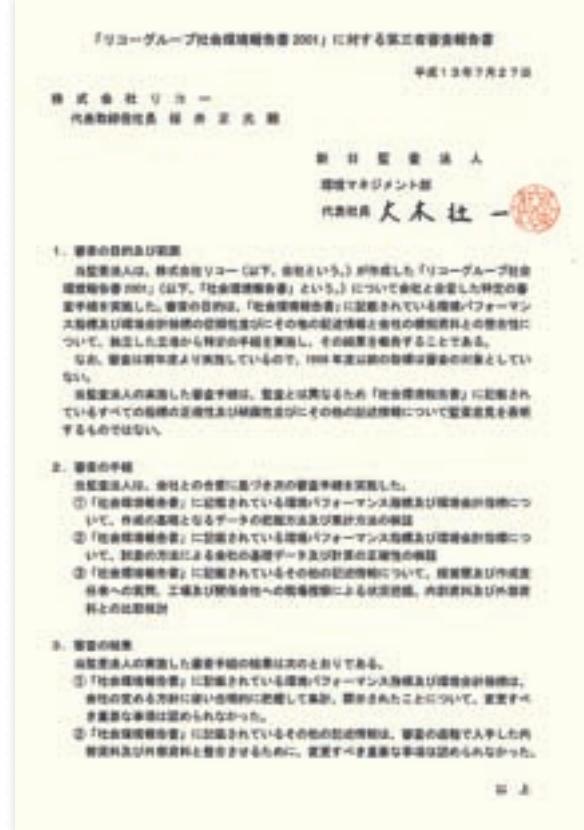
2001年版は2001年9月に発行しました。

2002年版の報告書は、2002年夏に発行の予定です。

編集後記

2001年版の報告書は、GRIガイドラインを参考に作成し、タイトルも「社会環境報告書」と改め、社会性・経済性に関する記述も盛り込みました。環境に関する情報についても、環境会計やLCA研究の進展、グローバルな事例を積極的に盛り込むなど、記載内容が大幅に増大しました。記載する情報については充分に吟味したつもりですが、2001年版は、昨年の60ページを上回る74ページになりました。アンケートの結果からも「リコーグループの報告書を参考にしている」というご意見が16回答あった一方で、「量が多く専門的すぎる」というご意見が5回答ありました。今後は、情報量や内容のわかりやすさについても改善を図っていきます。

リコーグループの報告書は、情報の正確性・網羅性を高めるため、ほぼすべての事例に関して、実際に取材を行って掲載しています。2001年版に関しては、新たに海外事業所(フランス、イギリス、アメリカ、メキシコ)や、森林保全プログラムを実施している現場の取材などをいました。今後も、活動の報告だけでなく、より多くの皆様の環境保全活動に役立つ情報を収集するために、きめ細かな取材のとともに情報開示を行っていきます。



リコーグループは、社会環境報告書に記載する「環境パフォーマンスデータ」および「環境会計データ」の信頼性を高めるため、昨年に引き続き、朝日監査法人による第三者審査を受審しました。

リコーグループは、環境保全を経営の重要な柱のひとつに据え、環境経営に対するさまざまな取り組みを継続して実施しています。

GRIガイドラインへの配慮

今年度の報告書では、GRIガイドラインを参考に、社会・経済項目を追加し、全体を構成されています。

全リコーグループでの環境行動計画推進

海外を含めた全リコーグループを包括した環境行動計画を策定し、推進されています。

環境マネジメントの充実

2001年度までに国内の全事業所、および海外を含む全関連会社におけるISO14001の取得を目指して努力されています。

第三者報告書とは別に、審査を通じての所感として、下記のようなコメントをいただきました。



朝日監査法人 魚住氏・川原氏・入江氏によるリコーウッド事業所の視察風景

環境会計、環境情報システムの構築

国内の全事業所、および海外を含む全関連会社における環境会計の構築、環境情報システムの構築を進められています。

環境社会貢献の展開

環境ボランティア活動、環境に関する講演などをを行い、循環型社会の実現に貢献する努力をされています。

今後、環境経営の継続的向上に向けて、取り組みを進められることを期待しています。